

2025 年度以降ネパールの教育 SEE 制度

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

2025 年現在、ネパールの教育制度は大きな変革期を迎えています。教育の質を向上させ、全国民への教育の公平なアクセスを保証するために、政府はさまざまな政策改革と制度変更を進めています。その中でも、中等教育修了試験 SEE (Secondary Education Examination) は、教育評価制度の中核として見直され、より包括的で柔軟な評価方法が採用されつつあります。

■教育制度の現状と改革

ネパールの教育新制度は、基本的に以下の段階に分かれています。

① 幼児教育 ECD (3～5 歳) Early

Childhood Development では、出生からおおよそ 8 歳までの子どもの成長と発達を支援するための教育的・社会的・心理的な取り組みを意味します。特に以下の要素を含みます：

② 初等教育 (1～8 年生)

「旧小学 1～5 年生と中学 (6～8) 年生含」

③ 中等教育 (9～12 年生)

「旧高校生 9～10 年生 + (10+2) 年生含む」

④ 高等教育 (大学生)

大学校 (医学部 5.5 年、工学部 4 年、その他の学部 3 年～4 年生)

2025 年の時点で、ネパール政府は「学校教育法案 (School Education Bill)」を通じて、教育の制度的・法的枠組みを大幅に見直しています。特に以下の点に重点が置かれています。

教育の質の向上と格差是正を考えて、公立学校と私立学校の間に存在する教育格差を是正です。そのため、制度的・資源的な支援が行われています。例えば教育の強化では、ICT (Information and Communication Technology)、特に COVID-19 以降、遠隔教育の重要性が増し、であるタブレットやノートパソコンなどの ICT 電子機の導入が全国規模で進められています。また、教員の専門性向上のため、教員研修の標準化と「教員バンク」の導入により、地方や山岳地帯における教員不足の解消が目指しています。

■SEE 制度の概要と 2025 年の改革点

2024 年度まで全国統一高等学校修了試験 SEE (Secondary Education Examination) は、ネパールにおける 10 年生修了を認定のため重要な実施されてきた制度でした。2015 年までは「SLC (School Leaving Certificate)」と呼ばれていましたが、2016 年以降 SEE として再編されました。今後は 12 年間の勉強を終了し、行うのが SEE と言い、以下のような主な改革が加えられています。

1. グレード制 (GPA 制度) の採用

従来の SLC では、「合格・不合格」に基づく評価方式でしたが、それを廃止し、GPA (Grade Point Average) 方式が全面的に導入されています。学生の総合的な能力やパフォーマンスをより正確に評価できるようになり、進学や職業選択の柔

軟性が増しました。

2.外部評価と内部評価の併用

SEE の評価では 75% の外部筆記試験と 25% の内部評価（出席状況、課題、プロジェクトなど）で構成されています。これにより、日々の学習態度や実践的スキルも評価対象となり、よりバランスの取れた成績付けが可能になりました。

3. 試験運営のデジタル化

教育省および国家試験委員会は、試験申込、受験票の発行、試験結果の公表などをすべてオンラインで行うシステムを導入しています。これにより、書類の紛失や不正のリスクが減り、学生と学校双方にとって利便性が向上しました。

しかし、多くの改革が進められているなかで、一方教育現場では、いくつかの課題もこの制度では残っています。それは地方と都市の格差です。山間部や遠隔地では、依然として ICT 機器の不足、電力供給の不安定さ、教員の配置の難しさが存在しています。

私は今年の 4 月中旬から 5 月中旬までネパールに居ました時、カトマンズで教員の待遇や制度などのことで、ストライキがありました。このストライキは、「学校教育法案」に反対する全国的な教員ストライキでした。それによって、授業が長期間停止する事態に陥りました。政府と教員組合との協議により最終的に解決しましたが、教育制度改革と現場の調整の難しさを浮き彫りになりました。また評価基準の一貫性の欠如の問題もその一つでした。内部評価に関する基準や運用が学校ごとに異なるため、評価の公平性

に疑問が持たれることもあるということです。

■今後の展望と可能性

2025 年のネパールの教育および SEE 制度は、改革の只中にありながらも、希望に満ちた未来を描いています。それらは以下のような事柄の可能性が期待されるからです。

NQF 全国資格フレームワーク（National Qualifications Framework）の導入です。今は、SEE の結果が国家資格の一部として活用されるようになり、国内外の進学や就職において認知される枠組みが整いつつあります。また、職業教育に進学される際、SEE 後の職業訓練プログラムや技術教育が拡充され、学業とスキル育成が連携する形に進化しています。なお新制度のなかでは、グローバルな視点を考えて、英語教育や国際交流プログラムも強化され、学生がよりグローバルな視野を持てるような教育環境の整備が進んでいます。

最後に、2025 年のネパールにおける教育制度と SEE 制度は、過去の制度的限界を乗り越え、より包摂的で柔軟性のある形に変貌しつつあると思われます。政府の取り組み、教員の努力、そして生徒自身の意識変化が相まって、ネパールの教育は着実に進化を遂げると思います。

ただし、地域間格差や教員の待遇改善、評価基準の統一等、解決すべき課題も残されています。今後は、制度改革と現場の調和を図りながら、全ての子どもたちに質の高い教育を保証するための持続可能な仕組みの構築が求められるでしょう。